

【議案 1】

2006 年度事業報告

<2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日>

I. 概要

ESD の 10 年スタートの年である 2005 年の 12 月、政府はようやく「ESD の 10 年関係省庁連絡会議」を設置し、2006 年 3 月に「わが国における ESD の 10 年実施計画」を策定、公表した。そして 2006 年には環境省や文部科学省でも ESD を促進する事業が始まり、行政機関・自治体・高等教育機関等に ESD の認知・認識が広まりつつある。

ESD-J は 2006 年からの 3 年間で、国および地域レベルの「ESD 推進に必要な支援を提供できる仕組み」を模索し、そのビジョンを形成するための期間と位置づけ、以下の方針を立てた。

- ① 政府による国内実施計画の実効性を担保するために各ステークホルダーと連携しながら、より良い国レベルの推進体制を提案・創造する
- ② 地域の先進事例からの学びを通じて、「ESD を推進する地域の仕組み」のモデルを地域と共に模索・創造する
- ③ 地域の取り組み段階に応じた支援メニューを開発・提供しつつ、全国レベルでの「ESD 推進の仕組み」を提案し実現に努める
- ④ 「ESD を推進する仕組み」に必要な人材の養成に取り組む
- ⑤ 教育の担い手に対し、ESD への理解を広める
- ⑥ ESD の推進につながるあらゆる事業を、さまざまなテーマで活動する NPO をはじめ、行政・企業・教育機関など、多様な主体との対話や協働を通して実施する

具体的には、これまで行ってきた

- ・地域ミーティングの開催支援
- ・ESD 推進体制作りに関する政府・議員への働きかけ
- ・ESD レポートの発行、ウェブサイトの運営
- ・全国ミーティングの開催

などの取り組みに加え、

- ・既存の学習と ESD をつなぐシナリオづくりプロジェクト
- ・地域の ESD 第 2 ステップ支援事業
- ・環境省 ESD 促進事業・全国事務局として地域の ESD を支援
- ・関係省庁の ESD 推進施策の調査と公表
- ・ESD テキストブックの制作・発行
- ・アジア地域の ESD 事例調査と 6 ヶ国語ウェブサイトの立ち上げ

など、新しい活動に着手した。

これらの新しい事業は、地域において多様な ESD の実践を生み出すきっかけとなり、またその実践からは、ESD に取り組む際のさまざまなヒントや、ESD の促進に有効な支援のあり方等を抽出しつつある。また、ESD をより多くの人に伝えるためのツールを開発するなど、具体的な成果も生み出している。しかしながら、それらのプロセスや成果をまだ十分に、タイムリーに発信することができておらず、ESD-J の存在価値を多くの人に感じていただくまでには至っていないのが現状であると認識している。

その原因としては、常勤スタッフを 1 名増員し事務局体制を強化したものの、取り組む事業がそれ以上に増え、スタッフが事業に追われる状況が続き、事業の成果をしっかりと、タイムリーに伝えるという大切なフェーズがおろそかにならざるを得なかったことが考えられる。また、このような余裕のない運営は、事務局と理事や会員との距離を広げ、ESD-J の組織としての総合力を引き出せていない

状況を生み出していると考える。

次年度はこの反省を踏まえ、より多くの会員の皆さまと ESD を推進していく体制作りに取り組み、ESD-J の発信力を高め、社会にインパクトのある活動を展開できるよう注力していきたい。

II. 事業活動

1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

2003 年度より、①ESD の理解を促し、②地域で ESD をひろげていくための方向性を討論する場をつくり、③地域の ESD の担い手をネットワークすることを目的に、地域ミーティングの開催を働きかけ、支援してきた。今年度は未開催地での ESD 地域ミーティング（ステップ 1）に加え、既開催地が次のステップとして広域ブロックの動きや人材育成に取り組む事業（ステップ 2）の支援も行った。地域ミーティングは 2007 年 3 月末現在で、31 都道府県・40 地域で実施されたことになる。

これまでの成果としては、

- ・地域における ESD の関心度・認知度を把握できた
- ・普及のためのキーパーソン・組織を把握できた
- ・次のステップになにをするか共有することができた
- ・ESD をキーワードに人をつなぐサポートができた

ことなどがあげられるだろう。

課題としては、

- ・空白県へのアプローチ
- ・既開催地でのネットワーク・パートナーシップづくりの深化
（行政や企業をどう巻き込んでいくか、多様な分野へのテーマのひろがりやつなげていくコーディネート者をつくらせていくか、など）

などが残されている。

また、さまざまな教育活動に取り組む人がつながり合い、地域で ESD を生み出していくためのシナリオづくりにも取り組んだ。このワークショップのプロセスはパッケージ化し、活動報告書にまとめて掲載しているので、今後地域で多様な人が集まって ESD を検討していく際に活用していただきたい。

<主な活動>

1) 地域ミーティングの開催

- ・第一ステップ＝未開催地での実施（8 ヶ所）

高知	7 月 29 日-30 日（50 名）	／	土気（千葉市）	10 月 22 日（49 名）
水俣	11 月 26 日（20 名）	／	石川	1 月 20 日（23 名）
松戸	2 月 10 日（22 名）	／	貝塚	2 月 18 日（12 名）
久留米	2 月 25 日（22 名）	／	大野・垂水	2 月 25 日（55 名）

- ・第二ステップ＝「ESD 推進の仕組みづくり」につながる企画の支援（4 ヶ所）

関東	関東ブロックミーティング プレミーティング	3 月 10 日（18 名）
	in 埼玉	10 月 21 日（25 名）
	in 栃木	12 月 2 日（22 名）
	in 神奈川	1 月 17 日（15 名）
	in 千葉	1 月 28 日（10 名）

日野市 ESD ワークショップ (2回・各 15名)
日野シンポジウム 3月25日 (30名)
岡山市 ESD コーディネーター養成講座 (2回・各 25名)
ESD フェスティバル 2月3-4日 (200名以上)
ESD・環境教育円卓会議 2月24日 (100名)
北信越 ハッピースマイルプロジェクト (人材リストづくり)

2) ESD-J 全国ミーティング

3月18日 JAICA 国際総合研修センター (27団体パネル出展、130名参加)

3) ESD シナリオづくりプロジェクト実施

参加メンバー 9分野 14団体 20名

人権教育、福祉教育、環境教育、食農教育、青少年育成
国際理解教育、平和教育、キャリア教育、ジェンダー教育

ワークショップの開催 (5回)

10月4日、11月6日、11月18-20日、12月11日、2月1日

2. 政策提言および調査研究事業

関係省庁連絡会議が作成した「わが国における ESD の 10 年実施計画」は、ESD 推進の方向性は示しているものの、具体的な達成目標やそのための実施体制などの検討がなされていない。また、政府の事業の殆どが現行事業の読み替えであり、ESD の 10 年を必ずしも反映されていない。特に重要な評価・モニタリングについては中間年に向けた評価指標も示していない。2006 年度はこれらを官民協働で作っていくために、政府と市民の ESD 情報交換会や ESD 円卓会議の開催、統一地方選挙に向けた緊急アピールや ESD 関連省庁の施策調査に取り組んだ。また、環境省の ESD 促進事業推進業務を受託し、地域での ESD モデルづくりの支援に取り組むことを通して、全国事務局として ESD 促進に必要な支援機能を検証することができた。

以上のような活動を通して、官民協働による ESD を推進する仕組みの下地づくりは進められたが、官民協働による仕組み・体制を実現するに至らなかった。今後は政治を介した政策提言の強化を図り、もって政府の体制強化と官民による協働推進体制の確立と ESD 協働事業の推進を実現させていきたい。

<主な活動>

1) 「官民協働による ESD を推進する仕組み」のビジョンづくり

・5月29日(月) 政府と市民の ESD 情報交換会 in 東京 (71名)

・2月24日(土) ESD 円卓会議 in 岡山 (100名)

2) 環境省 ESD 促進事業 (全国事務局)

・75地域から応募、10地域を採択

・10地域の研修交流事業の実施、地域活動の側面支援等、成果の取りまとめ等

3) 統一地方選挙に向けた緊急アピール&公開質問状(3月)

11地域31名へ発送、回答数8地域12名

4) ESD 関連施策の調査・公開 (2月)

実施省庁：環境省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、林野庁

3. 研修および普及啓発事業

研修事業としては、ESD 入門であるテキストブックの完成を受け、プレゼンテーション用パワーポイントデータを作成、テキストブック 10 冊以上の購入者に無償配布した。また 3 月の全国ミーティン

グで「ESD 入門」のワークショップを実施、今後このプログラムをベースに、研修プログラムを組み立てていく予定である。また、要請に応じ 15 件の研修やセミナーに講師派遣を実施した。

普及事業としては、ESD につながるさまざまなセミナーやイベント 15 件に共催・協力・後援等で企画協力および広報協力を行った。

多様な主体によるセミナーや研修、イベント等を通して、約 3,600 名もの方に ESD に関する情報を届けることができたのは成果といえるが、受身の事業が多く、今後は必要と思われる分野に対し、積極的にプログラム開発し、提案・実施していくアプローチが必要であると考えます。

<主な活動>

1) セミナー、講習会等の開催

ESD 入門講座 (全国ミーティング) 3月18日 (40名)

2) 出前講座、講演者派遣

環境教育担当者研修 (環境パートナーシップオフィス) 4月24日・東京 (30名)
環境教育担当者研修 (環境省) 4月25日・東京 (200名)
消費者環境教育研修 (日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会) 8月21日-23日・千葉 (35名)
環境教育指導者養成研修講座 (文部科学省) 9月26日-29日・福島 (55名)
ESD-China ワークショップ (中国自然の友) 11月4日-6日・北京 (100名)
環境省環境教育担当者研修 (環境省) 11月7日・埼玉 (120名)
広島大学附属高等学校研究大会 (広島大学附属高等学校) 11月11日・広島 (80名)
東北 EPO 設立記念 ESD セミナー (東北 EPO) 11月15日・岩手 (25名)
人権教育担当者研修 (大阪市教育委員会) 11月28日・大阪 (10名)
環境教育指導者養成研修講座 (文部科学省) 11月14日-17日・広島 (58名)
環境教育リーダー研修基礎講座 (環境省、文部科学省) 12月1日・高知 (50名)
ESD 講演会 (佐世保市) 2月2日・長崎 (40名)
第 120 回日本ユネスコ国内委員会オープンフォーラム (ユネスコ国内委員会) 2月28日・東京 (120名)
環境 ESD シンポジウム (愛媛大学) 3月11日-12日・愛媛 (80名)
多文化地域のフィールドワーク (群馬県・群馬大学) 2月15日・千葉 (35名)

3) 共催・協力事業

【共催】

アジア協力対話第 3 回環境教育推進対話 6月14-15日・仙台 (約 150名)
日本環境教育学会第 18 回大会プレミーティング 10月21日・鳥取 (26名)
かごしま ESD フォーラム 3月21日・鹿児島 (84名)

【協力】

民衆演劇の手法で考える ESD アジア太平洋交流ワークショップ 7月14-24日 東京・大阪等 7カ所 (延べ 163名)
言の葉さらさらプロジェクト 通年 (1368通)

【後援】

[ずっと地球と生きる] 学校プロジェクト 通年・全国 8校 (延べ 532名)
ヘレナ・ノーバーク・ホッジ招聘シンポジウム 5月20-23日・東京 (延べ 1300名)
中・四国環境教育ミーティング 6月24-25日・岡山 (31名)
ESD & 多文化教育のための教材作りに挑戦 8月10-11日・大阪 (25名)
第 10 回学校と地域の融合教育フォーラム 2006 8月19-20日・東京 (132名)
環境教育シンポジウム『すべてのこどもに体験から学ぶ環境教育を』 10月13-15日・東京 2カ所 (延べ 164名)
環境教育指導者養成アースエディケーションワークショップ 11月3-4日・東京 (22名)
近畿 ESD フォーラム 3月7日・大阪 (58名)
Beyond 自然教育～ESD and How to teach it 3月17-18日・京都 (延べ 55名)
未来をつくる教育と経済～持続可能な社会とは？ESD の可能性 3月21日・名古屋 (82名)

4. 情報収集・提供および出版事業

「ESDをわかりやすく解説しているテキストがほしい」というニーズに応え、ESD入門ブック『未来をつくる「人」を育てよう』を制作・販売した。11の大学のほか、高校、地方環境事務所、自治体、団体会員から100冊単位での注文を得たこと、注文数に占める非会員からの注文数も半分強を超えたことなどから、「テキストブックの制作・販売」という運動展開の可能性を見出すことができた。次年度以降も、できれば定期的にテキストブックを発行することを追求したい。

課題としては、「ESDレポート」「活動報告書」などの紙媒体の発行は軌道に乗ったものの、ESD-Jやそのメンバーが展開しているESD推進にかかわる動きや成果を十分に、タイムリーに発信することができていないことが大きい。ESD-Jの存在価値を多くの人に感じていただけるように、媒体としてはウェブサイトによる情報発信をもっと強化する必要があると考えており、次年度は体制を強化してウェブサイトの改善をすすめたい。

<主な活動>

- 1) 日英ウェブサイトの運営
アクセス数:月間平均 30,000 ページビュー
- 2) 「ESDレポート」の継続発行
6月、11月、1月、3月の4回発行、A4版、8ページ、各5,700部
- 3) ESDブックレット「ESD-J2006活動報告書」の発行
A4版、208ページ 900部
- 4) ESD入門ブック『未来をつくる「人」を育てよう』制作・販売
A5版、64ページ、初版5,000部印刷(3月末3,800部受注)

5. 国際ネットワーク推進事業

ESDの推進に向けて海外からのアプローチに対する窓口機能および海外への情報発信の仕組やネットワークづくりを目的として設立された国際ネットワークPTは、日本のNGOの窓口として周知されるようになってきた。特に2006年度は、AGEPP(Asia Good ESD Practice Project)事業を通して、アジア7カ国のESDの具体的な動きが把握できる体制が整ったこと、それらを各国で共有する場を創出してきたことは成果といえる。また、日本におけるESDの実践として各地域の事例をウェブサイトで発信することができた。課題としては、100を超える会員団体等の各々の経験や専門性を活かし、ESD-Jならではの国際PTとしての活動のあり方を整理し、構築していくことが求められている。

<主な活動>

- 1) アジアESD推進事業: Asia Good ESD Practice Project (AGEPP) の実施
参加国: 日本、インド、インドネシア、フィリピン、中国、韓国、ネパール
- 2) 6月14~15日「ACDアジア協力対話」における『第3回環境教育推進対話』を共催
- 3) ESD-C (ESD-China) 設立への支援協力
7月16日設立
- 4) 英語版ウェブサイトの翻訳、情報発信
ESD地域事例: 10事例

6. その他の事業

- 1) 地球環境基金委託事業「環境NGOと市民の集い」
11月23日(木)、1月15日(月)、2月10日(土)開催

Ⅲ. 会議等

<総会>

通常総会 6月18日 立教大学

<理事会>

第1回理事会 5月28日 立教大学
第2回理事会 6月18日 立教大学
第3回理事会 10月7日 環境パートナーシップオフィス
第4回理事会 12月17日 環境パートナーシップオフィス
第5回理事会 3月17日 JICA 国際総合研修所

Ⅳ. 会員・理事・事務局等(2007年3月末現在)

<会員> ※()内は2006年3月末の数

団体正会員	94 団体(96 団体)	個人正会員	103 名(107 名)
団体準会員	12 団体(9 団体)	個人準会員	157 名(126 名)
賛助会員	4 団体(4 団体)		

<理事>

代表理事 阿部治
副代表理事 池田満之、重政子、竹内よし子
理事 浅川和也、伊藤通子、岩崎裕保、大島順子、大前純一、清水悟、新海洋子、
枚本育生、関口悦子、世古一穂、辻英之、降旗信一、前川実、宮崎稔、森良、
山本幹彦

<監事>

浅見哲、吉岡睦子

<顧問>

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

<事務局>

事務局長 村上千里
スタッフ (常勤) 佐々木雅一
(非常勤) 野口扶弥子、渡辺いずみ
(アルバイト) 上野あや、後藤究
(プロジェクトスタッフ) 小林芽里、鈴木祐司、吉沢卓